



## ベーシックレベルI-③研修

今年度のベーシックレベルIの研修が終了しました。最後の研修は看護研究・救急看護・看護倫理・キャリア教育の4つでした。最初は「看護研究」を学びました。看護研究担当のH副看護師長より看護研究・文献検索の意義について熱い説明を受け、その後、本院の看護研究教育プログラムと3年目の課題となるCITIJapanについて講義を受けました。また、図書館司書から実際にパソコンを使って文献検索の方法を学びました。日々の看護実践の中で感じた疑問を解決したり、よりよい看護を行なうためには文献が有効であることに多くの受講生が改めて気づく機会となりました。

「救急看護」では救急看護認定看護師のO看護師長より、観察の手法、迅速評価についての講義を聞きました。また、急変時の報告形式は実際に行いました。血圧計やパルスオキシメータなどの数字に頼らず、患者さんの状態を5感で感じる必要性について考えました。

午後からは「看護倫理」を学びました。生命倫理の基本原則、看護倫理と看護者の倫理綱領を学びました。また、臨床倫理の4分割を学んだ後、事例を使って、実際にワークシートを使って分析しました。

「キャリア教育」では、この1年の学びを振り返りました。リフレクションについて説明を受けた後、①印象に残ったこと・疑問に残ったこと②発表に対してお互いが感じたこと③先輩看護師の感動した看護④自分が大切にしたいことについてグループで話をしました。それぞれのグループから大切にしたいことが多くでてきました。「自分の印象に残った出来事をグループワーク内で話したことで、自分では気づけなかった視点で何をすべきだったか意見を貰えた。自問することも大切でその後に他スタッフや同期に相談することもまた必要だと分かった。」感想がありました。共有した学びをこれからの実践に活かしていただきたいと思います。



## 退院支援研修

2月8日(金)に退院支援研修を行いました。今回は、各自が退院支援を実践した事例を持ち寄り、グループ内で報告後、テーマを決めて意見交換をしました。「家族支援の重要性」「各部署での遅れない退院支援のための対策」「小児の在宅支援の課題」「連携の重要性」「意思決定支援」など課題が明確になり、その対策についても様々な意見がでました。「最後のGWで他部署の事例も知ることができて、自分の退院支援や患者の意思決定支援、家族、患者指導の参考になりました。これからのようにしていけばより患者の思いによりそうことができるのか意識的に心に留めて患者と関わっていきたいと感じた」「実践報告についてグループ内での発表とグループワークすることで、共通した悩みであったり、どのようにすればよかったかなどが深く話し合うことができて有意義であった」と感想がありました。退院支援研修で学んだことや気づきを活かしながら、部署での退院支援につなげていっていただきたいと思います。

## 復帰支援 ランチョンセミナー

2月13日(水)にランチョンセミナーを行い、今回は、ICUのK副看護師長にお話をいただきました。復帰前の不安や復帰までに準備していたこと、復帰後に困ったこと、実際にどのように対応したかなどを具体的にお話していただき、参加された方は、真剣な顔で聞き入っていました。また、家族の役割分担や復帰後の日々の生活のスケジュール、仕事をしていてよかったことなどもお話いただきました。たくさんの質問にご自身の経験を踏まえて、答えていただきました。復帰に不安は大きいと思いますが、復帰後の生活をイメージして準備していただけたらと思います。



## お知らせ

**公開講座**  
日時：2月21日(木) 8:20~16:45 ジェネラリストI-④ 「実践報告会」  
場所：管理棟 5階 大会議室  
※一部聴講も可能です。多くの方の聴講をお待ちしています。  
勤務時間内に一部聴講される方は、控除の手続きが必要です。

**平成30年度 第4回 キャリア支援スタッフ委員会**  
日時：2019年3月8日(金) 10:00~12:00  
場所：かもがわ会議室  
内容：実践報告

**緩和ケアを推進する看護師養成プログラム実践報告会のお知らせ**  
日時：2019年3月9日(土) 13:00~16:20  
場所：看護学学舎 1階 大講義室  
内容：講演『緩和ケアに活用できる認知症ケア「ユマニチュード」  
～あなたのことを大切に思っています、と伝える技術～』  
講師 がん性疼痛看護認定看護師 関川加奈子

**2019年度第1回 プリセプター研修**  
日時：2019年3月8日(金) 13:30~16:45  
場所：かもがわ会議室  
内容：新人看護師を取り巻く現状・成人学習者の特徴など  
※参加者は、ナースナビで申し込みをお願いします。

※お問い合わせは看護実践キャリア開発センターまで